

大会日程

開会式

1. 開会宣言
2. 優勝杯返還
3. 大会委員長挨拶
4. 選手代表宣誓

閉会式

1. 成績発表・表彰
2. 大会委員長挨拶
3. 閉会宣言

競技日程

第1日目 6月19日(金)

開始時刻

- 1 男女スプリント予選(男子は上位12名は1/8決勝へ、女子は上位8名は1/4決勝へ) 16:30

第2日目 6月20日(土)

- 2 男子チーム・スプリント決勝(タイムレース) 9:00
 - 3 女子3kmインディヴィデュアル・パーシュート決勝(タイムレース) 9:35
 - 4 男子チーム・パーシュート決勝(タイムレース) 10:25
 - 5 男子スプリント1/8決勝 6組(勝者は1/4決勝へ、敗者は敗者復活戦へ) 11:20
 - 6 男子スクラッチ予選5km 2組(上位7名は決勝へ) 11:40
 - 7 男子スプリント1/8決勝敗者復活戦 2組(各組上位1名は1/4決勝へ) 12:00
- 昼休憩
- 8 男子ケイリン1回戦 4組(各組上位2名は2回戦へ) 13:30
 - 9 男子3kmインディヴィデュアル・パーシュート決勝(タイムレース) 14:00
 - 10 男女スプリント1/4決勝 15:00
 - 11 男子4km速度競走予選 3組(各組上位3名決勝へ) 15:30
 - 12 男子ケイリン敗者復活戦 2組(各組上位2名は2回戦へ) 16:20
 - 13 男女スプリント1/2決勝(2回戦制) 16:50

第3日目 6月21日(日)

- 14 男子ケイリン2回戦 2組(各組上位3名は決勝へ、下位3名は順位決定戦へ) 9:00
- 15 男子4km速度競走決勝 9:20
- 16 女子1kmタイムトライアル決勝 9:40
- 17 男子1kmタイムトライアル決勝
- 18 男子スクラッチ決勝(8km) 10:40
- 19 男女スプリント3-4位決定戦(1回戦) 11:00
- 20 男女スプリント1-2位決定戦(1回戦)
- 21 男女スプリント5-8位決定戦
- 22 男女スプリント3-4位決定戦(2,3回戦)
- 23 男女スプリント1-2位決定戦(2,3回戦)
- 24 男子ポイント・レース決勝(20km) 11:40
- 25 男子ケイリン7-12位決定戦 12:20
- 26 男子ケイリン1-6位決定戦
- 27 表彰式・閉会式 14:00

トラック・レース種目説明

[短距離種目]

■1kmタイムトライアル

選手が単独で1kmをいかに早く走るかを競う競技で、自転車競技の中で最も基本的な種目です。申告タイムの近い選手どうしを組合せ、ホーム側とバック側から同時にスタートします。単純な種目に見えますが、スタートのタイミング、素早い加速、ペース配分、コーナーの走り方など様々な要素があり、1/1000秒を競う見応えある種目です。インターハイ出場のためには標準タイムを突破することが必要になります。

■スプリント

予選は、一人ずつフライングスタートで200mのタイムを計測します。男子は上位12名、女子は上位8名が1回戦に進出します。1回戦から決勝まで2名の競技者が同時にスタートし、着順を競う種目となります。この種目は「トラックレースの華」ともよばれ、1対1の対戦で、テクニックとパワー、瞬間の判断力など総合力が要求される種目です。ゴール手前の爆発的なスプリント合戦と、それまでの様々な駆け引きがこのレースの見どころです。

■チーム・スプリント

1チーム3名で編成され、3周のタイムトライアルで競われるレース。3名の選手が1周回ずつ先頭を引いた後にチームから離れ、最後の1人がゴールしたときのタイムによって勝敗が決まります。スピードを落とさずに走りきる豪快さが魅力です。チーム構成、走行順番などが勝敗に大きく影響を与えます。インターハイに出場するためには標準タイムを突破することが必要です。

■ケイリン

日本で生まれて、世界で採用され発展してきたのが「ケイリン」です。オリンピックではシドニーから正式種目として採用されました。デルニーに乗ったペーサ（誘導員）がスタート時30km/hから、徐々にスピードを上げて、50km/hまでペースアップして、レース距離の半分に達したところで走路を離れます。ペーサが退避した後は選手だけのスプリント競走が行われます。終盤、集団のスピードがMAXに達し、一気に勝負が決まる迫力ある競走が見どころです。

■スクラッチ

スクラッチは定められた距離を走り、フィニッシュ順位を競う種目です。距離の短いロード・レースとも言われます。男子では予選5km、決勝は8kmで行われます。1周のローリング・スタート後（競技外周回）、号砲によって競技を開始します。順位は獲得周回を考慮し、最終スプリントにより決定します。集団内での位置取り、ペース配分を考えながら最終スプリントで着順を競う種目です。

[中・長距離種目]

■個人追抜競走(インディヴィデュアル・パーシュート)

2名の選手がホーム側とバック側のセンターラインから同時にスタートし、男女ともに3km（9周）の距離で相手を追い抜くか、もしくはタイムによって順位を決定します。タイムレースの場合は相手を追い抜いても最後まで完走し、タイムを計測して順位を決定します。インターハイに出場するためには標準タイムを突破することが必要になります。

■団体追抜競走(チーム・パーシュート)

1チーム4名で編成し、タイムを計測して順位を競います。4kmを走る間に相手チームを追い抜くと勝ちとなる競技です。先頭選手にはスピードが速くなるほど風圧による空気抵抗の負担が大きくなるので、4名が順番に先頭を交代しながら、チームの設定タイムを維持しながらレースを進めます。タイムは3人目の選手がゴールしたタイムです。団体種目ならではのチームワークが見どころです。インターハイに出場するためには勝負も大事ですが、標準タイムを突破することが必要です。

■ポイント・レース

距離24kmを走行し、ポイントを獲得しながら競う種目。5周回にポイント周回がもうけられ、1位から4位の選手にポイントが与えられます。（1位通過＝5点、2位通過＝3点、3位通過＝2点、4位通過＝1点、フィニッシュ時は2倍点）また、主集団に追いついた選手には20点が与えられます。順位はポイントの合計点によって決定されますが、同点の場合は、フィニッシュの着順で決定します。

■4km速度競走

9～12名の選手が一斉にスタートし、4kmの距離で競走します。選手が風圧を避けて消極的なレースにならないように、ホームとバックストレッチに定められた回数以上、先頭で通過しなければならぬという「先頭責任」が課せられます。順位の決定は、この先頭責任を完了した選手で、ゴールした着順により順位が決まります。選手個々の脚質と持ち味を生かしたレースが展開されます。スピード・持久力・作戦が勝敗を左右します。

■インターハイ参加標準タイム

タイム系種目でインターハイに出場するためには以下の参加標準タイムを突破する必要があります。

1kmタイムトライアル	1分09秒000
3kmインディヴィデュアル・パーシュート	3分40秒960
4kmチーム・パーシュート	4分40秒940
チーム・スプリント(333m)	1分06秒590

※電子計時

個人、チームともに、標準タイムの突破を目指して戦います。勝負に勝つことも大事なことです。もう一つの敵（標準タイム突破）は、自己との戦いであると言えます。選手たちの真剣勝負の熱い走りが期待されます。